

令和6年度 第1回学校運営協議会

住 所 盛岡市羽場18-11-1
学 校 岩手県立盛岡工業高等学校
校 長 瀬戸和彦
電 話 019-638-3141

1 会議の名称

令和6年度第1回学校運営協議会

2 会議の日時

令和6年6月3日（月）14:45～15:25

3 会議の場所

盛岡工業高等学校 盛工百年館 第1研修室

4 出席者の氏名

森 達也	岩手県立産業技術短期大学校 校長
池 浩之	岩手県工業技術センター 専門幹研究員
浅 沼 清一	エスペロの会 会長 [JA岩手中央代表理事組合長]
佐々木 康隆	盛岡市立飯岡中学校 校長
中 里 哲夫	同窓会 体育後援会副会長
中 村 知泉	P T A 元P T A 3 学年委員長
瀬戸和彦	校長
吉田 亨	副校長（全日制）
宮 沢 一裕	副校長（定時制）
千葉 隆一	事務長
田 鎖 充	教務主任（全日制）
小野寺 真由美	総務主任（全日制）

【欠席者】

野 田 純 孝	株式会社ミクニ盛岡事業所 所長
尾 崎 芳 彦	副校長（全日制）

5 会議の次第（進行：吉田副校長）

辞令交付

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 学校運営協議会の設置について
- (5) 会長、副会長の選出について
- (6) 協議（進行：森 委員）
 - ア 令和6年度学校経営計画及び教育活動計画
 - イ 本校の魅力化、特色化に係る意見交換
- (7) その他
- (8) 閉会

6 会議の概要（協議内容）

（1）辞令交付

机上への配付

（2）校長挨拶

4月9日の入学式では全日制248名、定時制8名の合計256名の新入生を迎え、全校生徒713名で今年度創立127年目のスタートを切った。昨年度と比較して全日制では32名、定時制は2名の34名多い新入生であり、過去5年間では最も多くの生徒を迎えることができた。生徒と教職員が丸となって学校の「魅力化」と「情報発信」を進めたことによる成果だと考えている。その一つとして、高総体では昨年度以上の活躍をみせてくれた。本日は、委員の皆様から学校運営や魅力化について様々なご意見をいただき、今後活かして参りたい。

（3）委員紹介

各委員から自己紹介

（4）学校運営協議会の設置について

資料2～3ページをもとに吉田副校長が説明

（5）会長、副会長の選出について

規約により互選。事務局案として会長には森 達也委員、副会長を池 浩之委員に依頼することを吉田副校長から提案。他の委員から異議はなく、森委員、池委員ともに承諾。

（6）協議（進行は森会長が務める）

ア 令和6年度学校経営計画及び教育活動計画

資料4ページの[全日制]と5ページ[定時制]の学校経営計画について吉田副校長が説明した。Mプロジェクト、三つの方針（スクール・ポリシー）の作成経緯と記載内容、進路状況に関する資料、令和5年度部活動の活躍も併せて説明した。

学校経営計画の説明要旨

- ・毎年度、学校長から教職員に示される計画である。「4 目指す学校像」の重点目標それぞれに達成指標を掲げ、組織的に取り組んでいる。
- ・取組方針の具体は資料記載のとおり。5ページは定時制の経営計画である。

Mプロジェクトについて

- ・資料6ページは、盛工生が獲得を目指す「3つのC」についての資料である。「挑戦」、「変化」、「創造」に向け、生徒、職員が丸となって本校の魅力づくりを進めている。

三つの方針（スクール・ポリシー）について

- ・資料7ページからは[全日制]、11ページからは[定時制]の資料である。「盛工として育成する力」や「盛工で何を学ぶか」、「盛工はどのような生徒を求めるか」について記載し、学校を運営している。

進路状況及び部活動について

- ・令和5年度の進路状況について、就職は13ページから、進学は17ページに資料を掲載した。卒業生のうちおよそ7割が就職で約3割が進学であり、建築・デザイン科では進学者の割合が高く（約50%）なっている。国公立大学には一般推薦で1名、私立大学は指定校推薦による進学者が多い状況である。
- ・資料18ページは昨年度の部活動について、高総体や国体、新人大会等の成績をまとめた資料である。県高総体では、今年度もほぼ同様な結果が出ているが、ラグビー部の準優勝やレスリング部の優勝、ソフトテニス部では男子個人で第3位と第5位に入賞しインターハイへ出場、バスケットボール部の第3位等、昨年度を上回る結果であり運動部を中心に躍進している。19ページには「その他の大会」として自動車部、吹奏楽部、囲碁将棋部など文化部の大会結果も

記載したのでご覧いただきたい。

その他（教務及び総務、定時制）

- ・今年度の新入生は全日制で32名増えた。教務では例年7月に2日間で行っている「体験入学」や中学校を訪問しての「高校説明会」を担当しているが、既に14の中学校から「高校説明会」の依頼を受けており、本校の魅力をPRしたいと考えている。
- ・県立高等学校では1年生の「BYOD」が今年度から始まった。購入を希望した生徒の端末が間もなく学校に届くので、本校でも授業での活用を推進していきたい。
- ・5月11日にPTA総会を開催した。授業参観を可として案内したところ、211名（30.5%）に出席いただいた。総会前にお帰りになった方もいたが、学校に足を運んでくださる状況がみられた。
- ・来週14日に行われる「保護者進路見学会」は、県広域振興局とタイアップしてバスで見学に行く予定である。定員を30名としたが参加申込が多く、保護者の関心が非常に高くなっている。
- ・定時制の学校経営計画は資料の5ページ、スクール・ポリシーは11ページと12ページに掲載している。様々な特性を持った生徒が在籍しており、保護者と連携をとりながら先生方としっかりと指導していきたい。
- ・昨年度の卒業生は8名であり、進路先については資料16ページに記載されている。今年度は4年生1名と3年生3名の4名が卒業予定であり、進路活動に意欲的に取り組んでいる。
- ・部活動については、陸上競技部と卓球部が県高総体の学校対抗の部で第1位となり、個人でも上位の成績をおさめた。7月と8月に東京都で開催される全国大会へ出場する。

【委員】

それぞれの学校経営計画を示していただいたが、重点目標の達成指標は実現可能な数値なのか。現在はどのような状況か説明していただきたい。

【学校】

各重点目標は既に達成している数値ではあるが、今年度も達成可能な目標数値として掲げている。計画の作成にあたっては、8割以上が達成できる目標を設定するようにしている。

【委員】

取組方針に「スマートフォン等の利用マナー」に関する記載があるが、現在はどのような状況か。

【学校】

生徒個人の端末であることから、校内ではできるだけ使わないように指導している。昨年度まではスマートフォンも校内Wi-Fiに接続でき、生徒は授業以外にも休み時間に使っていたため回線が混雑して授業に支障がでていた。4月からはスマートフォン接続に制限がかかり、タブレット端末等だけが校内Wi-Fiに接続できるようになった。授業で使う場合は、1年生はBYODのタブレット機器、2・3年生はChromebookを貸し出して対応している。

【委員】

先ほど授業を参観した際には、机上にスマートフォンが置いてあった。以前は、登校してから放課後までスマートフォンを預けることが高校では主流だったが、今は預かることはないのか。

【学校】

現在では、ICT機器は文房具の一部という認識であり、学校教育に必要なものであるという考えから本校では預かることはしていない。学校によっては、まだ昔ながらの体制の学校もあるかもしれない。

イ 本校の魅力化、特色化に係る意見交換

【委員】

この少子化が進む中で、入学者が30名以上増えた理由をどのように考えているか。

【学校】

授業日数を昨年度から11日増やし、先生方には授業を改善しながら普段の授業をしっかりと進めてもらうこととしている。部活動を積極的に進めるため、9月と11月に実施していた「部活動体験会」を7月と9月に変更し、全学年の中学生を対象とする等、様々なことの見直しを図っている。

生徒に関係することでは、昨年度から生徒が校則検討委員会を立ち上げ、頭髪規程や服装、携帯など学校の課題と思われることを生徒が考えて先生方に提案することで学校を変えていこうという流れができています。下校時の服装や体育大会の種目・内容等々、生徒の話し合いで決まったことを反映させて情報発信しながら学校の魅力化を進めている。中学生はそのような情報に敏感であり、本校が選ばれることに繋がったのではないかと考えている。

【学校】

県立高等学校の入試制度が来年から大きく変わり、これまで1月におこなっていた推薦入試に代わって特色入試が3月に実施される。志願者全員が学力検査を受けるが、特色入試を希望する受検生はその翌日に各高等学校が設定した検査を受けるというもので、本校であれば面接等により入学意欲をアピールしてもらい、その結果により可否を判定する。

【委員】

先日、オンラインで高校入試に関わる説明を受けた。大きく異なる点として、学校或いは学科毎に特色入試の基準があり、各高等学校からは多様な生徒が求められていることを感じた。また、従来の推薦入試と同様の学校もあるが、プレゼンテーションを課されるなど、中学校側の進路指導の在り方について検討し、早く慣れていかなければならないと感じた。

【委員】

先程の説明で、進学者がおおよそ3割で推薦入試が多いと説明があった。これまでも一般入試で進学した卒業生はいると思うが、工業高校では進学指導をどのようにおこなっているのか。また、進学希望者が増えた場合、今後はどのように対応していくのか。

【学校】

進路指導主事の話しでは、一般入試に対応した教育課程ではないため、カリキュラム上対応できないことを入学時に説明している。専門高校なので工業の科目を履修する必要があり、五教科の授業時数が絶対的に少ないことは生徒に伝えている。ただし、一般受験を希望する生徒は塾に通っていたり外部模試を受けさせたりして、希望する大学等に進学できるよう指導しており、長期休業中の課外も実施している。今後としては、教育課程を大幅に変えない限り進学校のような体制をとることは難しいが、自分の能力をアピールするAO入試など様々な入試制度があるので、生徒の思考・判断・表現の能力を高めることができるよう授業改善を更に進めていきたい。

【委員】

工業高校で学ぶ生徒にも優秀な方がたくさんいるので、是非、伸ばせるところは伸ばしていただきたい。

【委員】

登下校時の状況を見ると、以前よりもマナーが良くなったと感じている。交差点を横断するときには周りの自動車に気を配り、お礼をする生徒も見られる。盛工は飯岡地区の財産だと思っており、小学校や中学校、高等学校の連携がある「エスペロの会」としては工業高校があることで組織が活性化し、子どもたちの目標にもなっているので、校舎移転せずにこの地域に存続して欲しいと思っている。10月には「エスペロの会」のコンサートを予定しており、地

域貢献の一つとしてマーチングバンドの活動を皆さんに披露して欲しいとお願いしている。この地域の高校を応援しているので、これからも頑張っていたきたい。

【委員】

委員の皆様からいろいろとお話が出ましたし、学校からの説明もありましたので、このまま一年間を順調に推移して年度末には良い結果報告で終わればいいのかと思っています。

(7) その他

岩手朝日テレビ「純情応援歌」の放送日時（6月5日 18時40分頃）について

(8) 閉会

7 議決事項

協議会会長	森	達也	(岩手県立産業技術短期大学校 校長)
協議会副会長	池	浩之	(岩手県工業技術センター 専門幹研究員)

8 会議のまとめ

本日、委員の皆様からいただいた御意見については今後も検討を重ね、本校の教育活動を更に充実発展させていきたい。今後とも御支援と御協力をお願いしたい。